

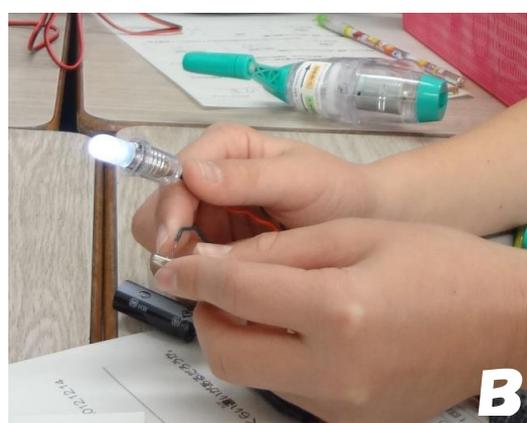
成果報告書 概要

2011 年度助成 (実践期間：2012 年 4 月 1 日～2013 年 12 月 31 日)	
タイトル	自然に親しみ、体験を通して、持続可能な社会を構築するための基礎を学ぶ
所属機関	横浜市立三保小学校
役職 代表者 連絡先	学校長 和泉 良司 045-931-1026

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	【個別支援級を含む全学年での実践】	○ 教師の指導力向上を目指す教員研修、 実験方法指導、教材開発
○ 中学生	第2学年 竹とあそぼう (生活科)	○ 子ども達の科学的思考能力の向上を目指 す授業づくり、教材開発
○ 教員	第5学年 田んぼの学校 (総合的な学習の時間)	○ ものづくり(ロボット製作等)による、科 学分野で活躍する人材の育成
○ その他	第6学年 追Q! 電気の性質と働き (理科) など	○ その他



A



B

実践の目的：	自然に親しみ、体験を通して持続可能な社会を構築するための基礎を学ぶ。
実践の内容：	個別支援級を含む全ての学年において、環境教育・環境学習・ESD を核にした教育活動 (主に生活科、理科、総合的な学習の時間) を実践した。 例A) 第5学年、総合的な学習の時間「田んぼの学校」 稲作体験や田んぼの魅力を「探り、発信」する活動を通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。 例B) 第6学年、理科「追Q 電気の性質と働き」 エネルギー資源の有効利用という観点から、発光ダイオードなどを活用した、電気の効率的な利用についてとらえることができるようにする。
実践の成果：	各学年での実践を踏まえ、ESDの年間指導計画や生活科のカリキュラム、総合的な学習の時間の基本構想図などを作成し、研究紀要にまとめた。また、実践の成果を公開授業研究会やこどもエコフォーラム等で発表した。
成果として特に強調できる点：	教師サイド 環境教育や環境学習、ESDの視点をもって生活科や理科、総合的な学習の時間に取り組むことができるようになった。 児童サイド 森や川、田んぼなどの自然に親しむとともに、そこで学んだことを整理・分析し、まとめ、発信することができるようになった。

成果報告書

2011 年度助成	所属機関	横浜市立三保小学校
タイトル	自然に親しみ、体験を通して、持続可能な社会を構築するための基礎を学ぶ	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

三保小学校の周りには新治市民の森、念珠坂公園、田んぼなど、季節ごとに色を変えるたくさんの自然がある。また、森の間を抜けるように、鶴見川の支流である梅田川が流れ、そこにはホトケドジョウやハグロトンボ、ゲンジボタルなど、横浜の他の地域ではめったに見ることのできない生き物たちが元気に生息している。

エネルギーの問題をはじめ、環境保全への取り組みがますます喫緊な課題となっている昨今、この恵まれた自然を学習材として活用しない手はない。地域にある豊かな自然と積極的に関わり、諸感覚を十分に使った学習活動を展開することで、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を身につけることができると考える。そこで本校では、「自然に親しみ、体験を通して持続可能な社会を構築するための基礎を学ぶ」をテーマに、環境教育・環境学習・ESD（持続可能な発展のための教育）を核にした教育活動を実践する。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

機器・材料の購入については、デジタル式気体測定器や水質測定器、放射温度計などの環境調査に関する測定器を揃えてESDに関わる学習環境を整えるとともに、移植ごてやスコップ、プランターなどを購入して花壇を整備し、校内の自然環境を整えた。また、調査活動や分析を充実させ、わかりやすく発信するためのICT（デジタルカメラ、顕微鏡投影機など）の整備を行った。

協力機関等については、新治市民の森愛護会や一本橋メダカひろば愛護会、地域の農家の方や昔遊び名人などをお願いして、学習活動に協力していただいた。また、環境教育推進校として公開授業研究会の準備、こどもエコフォーラムへの参加及び環境教育実践活動（H24年度「未来に残したい三保の自然」、H25年度「伝えよう 三保のコメの魅力！～田んぼの学校～」）の報告準備、中山地区センターでの写真展（H24年度「未来に残したい三保の自然」、H25年度「伝えたい！三保の自然展～未来へ残そう まちの自然～」）の準備などを行った。

3. 実践の内容

例1) 第2学年の環境教育・環境学習・ESDの取り組み ～竹とあそぼう～

学校から20分ほどのところにある新治市民の森には、大きな谷戸や複雑に入り組んだ尾根や谷、コナラやクヌギなどの深い森が広がっている。2年生は、森の中にある竹を教材にして、新治市民の森愛護会の方々と一緒に活動を行った。遠足では、竹を輪切りにして、竹ぽっくりにする「竹の切り出し」を行い、後日、本校で「竹ぽっくり・竹でっぼう」に仕上げ、学年全体で遊んだ。また、「竹の切り出し」の際に残った竹を使って、リユースしたものを持ち寄り、「竹の世界」を開催した。リユース品作りを手助けしていただいた新治市民の森愛護会の方々にも楽しんでもらいながら、子どもたちはそれぞれのリユース品の面白さ・アイデアのよさを伝え合うことができた。竹という「材への愛着」、そしてまちの自然を守る地域の方々とふれあいから、自分たちのまちを思う「ふるさと意識」をもってほしいと考える。(H25年度)



新治市民の森での竹切り体験



竹のリユース品作り



竹の世界

例2) 第5学年の環境教育・環境学習・ESDの取り組み ～田んぼの学校～

5年生は、毎年、三保・新治地区で農業を営む岩澤孝志さん（以下、岩澤さん）と一緒に、田植えや稲刈りなどの米作りを体験している。本年度は、地元でとれる米の魅力や米作りにおける様々な工夫、自然の一部である田んぼの価値などを探り、地域に発信する活動を行った。田植えなどの稲作体験や、田んぼの魅力を「探り、発信」する活動を通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことがねらいである。学習の最後に「三保の米の魅力伝える」PR集を作って地域に配布した。(H25年度)



稲作体験

苗床づくり、代かき、田植え、草取り、観察、稲刈り、脱穀、食べる



情報リサーチ（整理・分析）

岩澤さんを招待して「思い」に迫る（3回）



情報リサーチ（情報収集）

岩澤さんの直売所で消費者にもインタビュー



制作・プレゼンテーション（発信）

田んぼの学校で学んだことをPR集にまとめ、プレゼンをして地域の大人に発信！PR集と一緒ににおにぎりをふるまいました♪

4. 実践の成果と成果の測定方法

1年生の成果（環境教育・環境学習・ESDの取り組みを通して、H25年度）

身近な動植物の飼育・栽培をはじめ、公園たんけん等の活動を通して生き物や自然と体験的に触れ合う学習を展開した。「あきとなかよし」の学習では集めた木の実や秋のもので簡単なおもちゃを作ったり、友達や家の人を招待して遊んだりした。また、冬には、地域の“昔遊び名人”の方々に遊び方を教えてもらいながら一緒に遊んだり、近隣の幼稚園児を招待して交流したりすることができた。一連の取り組みを通して、子どもたちは身近な人と触れ合うことの楽しさを知り、地域の人や友達との関わりから自分の世界を広げ、自立への一歩を踏み出すことができた。〈成果の測定方法 → 児童の学ぶ姿、遊ぶ姿、ワークシートなど〉

3年生の成果（環境教育・環境学習・ESDの取り組みを通して、H25年度）

3年生は、町探検を通して、三保のよさを再発見する学習を行った。梅田川や薬師谷戸へ足を運び、虫・魚・鳥・植物とふれあい、見つけた生き物について調べ、保護者に向けて報告会を行った。また、理科の『光の性質』の学習を生かして、町探検で出会った地域の農家の方と一緒に学校園を耕し、太陽の光とマルチを効果的に利用した野菜作りに取り組んだ。三保のまちの地形や自然、歴史と関わりのある地域の生産活動に目を向けることで、三保の魅力を再発見することができた。〈成果の測定方法 → 児童の学ぶ姿、報告会での発表内容、ワークシートなど〉

4年生の成果（環境教育・環境学習・ESDの取り組みを通して、H25年度）

4年生には、1年を通して植物と関わる機会が多くある。例えば、理科では植物の観察を行ったり、図工では、樹木の絵を描いたりする。しかし、いずれも樹木の名前がわからずに困ったことがたくさんあった。そこで、「樹木札を作ろう！」という取り組みを始めた。似ている樹木を見分けながら、調べる毎日。みんなの力を結集しようやく完成へ向けて取り付け作業を残すのみ。この1年で4年生からたくさんの樹木博士が誕生した。〈成果の測定方法 → 児童の学ぶ姿、樹木札などの作品、ワークシートなど〉

6年生の成果（環境教育・環境学習・ESDの取り組みを通して、H25年度）

6年生は、まちの自然に目を向ける中で、三保のまちを知る「チャンス」を作り、環境保全に「チャレンジ」し、まちへの関わり方を「チェンジ」する活動を行った。昨年度の活動を受け継ぎ、まず、三保のまちの自然を写真に撮影するところから活動をスタートした。そして、梅田川の生き物調査や清掃活動に取り組んだり、一本橋メダカひろば愛護会の方々から話を聞いたりすることなどを通して、まちの自然の貴重さを実感することができた。「この豊かな自然を、未来に残したい」との思いをもった子どもたち。中山地区センターのご協力を受けて、自分たちが撮影した写真にポスターを添えて展示することで、地域に住むより多くの方へ発信した。名付けて『伝えたい！三保の自然展～未来へ残そう まちの自然～』。中山駅周辺にて、自然展のチラシの配布も行った。〈成果の測定方法 → 児童の学ぶ姿、写真などの作品、ワークシート〉

個別支援級の成果（環境教育・環境学習・ESDの取り組みを通して、H25年度）

個別支援学級では、一昨年からカブトムシを育てている。今年度は初めて、卵から育てたカブトムシを成虫に育てることに成功した。子どもたちは、その変化する様子に興味津々。土を入れ替えたり、幼虫の糞を取り除いたりする作業にも進んで参加していた。特に、ペットボトルに1匹ずつ幼虫を移してからは、「自分のカブトムシだ」という意識が芽生え大切にする様子がみられた。成虫になったカブトムシは、プール裏に作ったカブトムシランドに放した。いつか「カブトムシが育つ三保小」になればいい、子どもたちはそんな願いをもつようになった。〈成果の測定方法 → カブトムシを飼育する姿など〉

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

昨年度から本年度にかけて、ESD の年間指導計画及び生活科と総合的な学習の時間の基本単元を開発することができた。ESD の年間指導計画が完成したことによって、各教科・領域の学習内容を教科横断的につなぎあわせることができ、新たな学習のひろがりやつながりが見えてきた。また、機器や材料の購入、関係機関との連携によって、環境教育・環境学習・ESD をより効果的に進めていくための学習環境が整ってきた。

成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性

次年度以降は、本年度の成果を受けて、生活科と理科、総合的な学習の時間を中心に進めてきた環境教育・環境学習・ESD の取り組みを他教科にひろげ、「持続可能な社会づくり」という視点を切り口に、環境教育・環境学習・ESD を推進していく。あらゆる教科・領域で「持続可能な社会づくり」を意識した取り組みを行うことで、研究の深まりや発展が期待できると考える。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

平成24年度、平成25年度

横浜市に向けた環境教育推進校として公開授業研究会の実施

平成24年度、平成25年度

こどもエコゴーラムに参加し、環境教育実践活動の取り組みについて報告。ただし平成25年度については雪のために中止。活動内容をビデオで撮影し、作品として提出した。

7. 所感